

## 平成 27 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同研究班」 研究報告書

平成 年 月 日現在

研究課題名	スラブ・ユーラシア地域を中心とする境界・国境研究		
担当者	氏名		所属機関・職
	1	岩下 明裕	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授
	2		
班員	氏名	所属機関・職	専門とする研究分野
	朱 永 浩	国立大学法人福島大学 経済経営学類 准教授	中国東北地域と北東アジア諸国との経済関係
	研究テーマ		
ロシア極東・中国東北地域・朝鮮半島を中心とした北東アジアの物流			

## 研究成果の概要

## 1. 研究目的

本研究では、①自然発生的「国境貿易」の段階からより高度な経済協力へと進化しつつある中国東北部とロシア極東地域との間の国境をまたぐ物流・輸送ニーズを明らかにした上で、②そのニーズに対応したサービス提供を実現するために中ロ両国ならびに北東アジア各国が協力しながら整備しつつある「制度的基礎」の潜在的有効性を検証し、これらを踏まえて③今後の北東アジア地域の経済活動の地理的な構造変化の可能性を考察することを目標とした。

## 2. 実施内容と研究成果

内容：中ロ国境地帯の国際貿易・物流に関するヒアリング調査、有識者との意見交換

時期：2016年3月3日～3月11日

場所：中国黒龍江省綏芬河市

主なヒアリング先：綏芬河市外事処、綏芬河市交通局、戦略研究センター、綏芬河海鉄連捷国際貨運代理有限公司、商聯集団、陸海通路国際貨運代理有限責任公司、甲億方経貿有限公司ほか

調査概要：

綏芬河市は、中国黒龍江省東南部に位置し、同省最大の対ロシア国境都市であるとともに、ウラジオストクなどロシア極東の主要港から最も近距離の中国側都市である。1990年代に中国製の消費財を綏芬河口岸からロシア極東に持ち込む「担ぎ屋貿易」が大きく伸びたが、その役割は終わつつある。これは、国境地帯の小規模業者間の BtoB 取引の拡大には有効な手段であったが、中国全域に散らばるメーカー等がインターネットを利用してロシアの消費者に直接販売する BtoC の取引が普及する中では、これらに対応した新たな中ロ間物流システムの構築が進められている。

**研究成果の概要（続き）**

また、綏芬河市は綏滿高速道路（綏芬河～滿洲里）の始点であり、浜綏鉄道（ハルビン～綏芬河）の終点でもある。東はロシア極東鉄道に連結して、ロシア極東の南部港湾群と隣接し、北東アジア諸国およびアジア太平洋地域北東アジア地域を繋ぐシベリアランドブリッジ活用による重要な国際口岸（国境通過点）として位置づけられ、陸海複合一貫輸送ルートの結節点となる。今後、複合一貫輸送を利用することで、綏芬河～ロシア極東の主要港～北東アジア諸国の輸送距離が大幅に短縮され、黒龍江省とロシア極東および日韓との経済交流を牽引することが期待されている。

こうした背景から、本研究は、綏芬河市を調査対象に、国際輸送企業の経営実態、中口間及びトランジット輸送の実態に関するヒアリングを行い、近年の中口国境地域における交通インフラ整備および越境物流の現状と課題を考察した。

その結果、物流・輸送分野での中口事業進捗状況を把握し、一定程度具体的な課題を明らかにした。その成果として、学会発表、学術雑誌等への投稿等の方法により公表することができた。

**主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）**

## 1. 雑誌論文

朱永浩・包振山「中俄日陸海聯運与中国“東絲路帶”建設—基于試運營項目的分析与建議」『黒龍江省東北亜研究会第二屆會員代表大會論文集』黒龍江省東北亜研究会，2016年3月，pp. 21-23

何為民・朱永浩「中国国境地域における日本との経済交流の現状と可能性—広西チワン族自治区の事例を中心に」『ERINA REPORT』No.127，環日本海経済研究所，2015年12月，pp. 63-69

ARAI Hirofumi, ZHU Yonghao and LI Jinbo “Toward Expanding Japan-Russia-China Multimodal Transportation” 『ERINA REPORT』No.125，環日本海経済研究所，2015年8月，pp. 1-19

朱永浩「中国東北部経済と北東アジア地域との連携」『東亜』No.575，霞山会，2015年5月，pp. 40-45

## 2. 学会発表・研究発表

朱永浩「中露国境地域の経済交流実態をみる—国境の町・綏芬河のいま」UBRJ セミナー，北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター，2016年6月23日

朱永浩「中国国境地域の交通インフラ整備と国際陸上輸送—綏芬河の事例を中心に」北東アジア学会第21回学術研究大会，富山大学，2015年10月18日

## 3. 著書（分担執筆）

朱永浩「中国の膨張を支える対外戦略」，平川均・石川幸一・山本博史・矢野修一・小原篤次・小林尚朗編『新・アジア経済論—中国とアジア・コンセンサスの模索』文眞堂，2016年2月，pp. 104-118

**当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）****【採択】**

科学研究費・基盤研究（C），代表

「中口国境地域経済の変容に伴う越境輸送高度化と北東アジアへの含意」

（期間：2016年4月～2019年3月）

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。